



スポーツ史を通してみる グローバル化と日本

2020年 **1月21日(火)** 静岡県立大学

第一部 10:40~12:10 (会場：一般教育棟 1階 2106室)

第二部 13:00~14:30 (会場：国際関係学部棟 3階 3314室)

これまで「日本伝統武術のグローバル化」をテーマに、3回の講演会を開催してきました。東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、世間の注目はますますスポーツや身体活動に集まっています。本講演では、かつて多くの日本人を夢中にしたボクシングと水泳を取り上げ、二部構成で日本のグローバル化を論じます。第一部では、第二次世界大戦の戦災国フィリピンとの間で、なぜ日本がボクシングの「東洋一」を追い求めたのか、その意味を考えます。第二部では、静岡県とも縁が深い「フジヤマのトビウオ」を中心に、水泳日本代表がブラジルの日系社会に与えた影響を紐解きます。

スポーツの国際競技大会においては未だ、各国のメダル獲得競争が人々の関心事であり続けています。しかし、スポーツの意義はチャンピオンになることだけではありません。アスリートは政治・外交問題に翻弄されながらも、国際社会を渡り歩き、独自に見聞を広めてきました。本講演では、そうしたアスリートや彼らの招請に携わった関係者の知見を通して、近代日本の知られざる裏面史に迫ります。



第一部(講演会)

東洋選手権と大東亜の夢—ボクシングを通して日本—フィリピン関係史を描き直す
会場：静岡県立大学 一般教育棟1階 2106室

第二部(研究会)

「フジヤマのトビウオ」と海外移民—ブラジル日系コロニアは水泳日本代表に何を託したか？
会場：静岡県立大学 国際関係学部棟3階 3314室



講師プロフィール

乗松 優 (のりまつ すぐる)

愛媛県出身。九州大学大学院比較社会文化学府修了。博士(比較社会文化)。現在、ポートランド州立大学歴史学部客員研究員。「ボクシングと大東亜—東洋選手権と戦後アジア外交」(2016年、忘羊社)で第33回大平正芳記念賞を受賞。「ボクシングから読み直す日本—フィリピン関係史」(2018年、成文堂)や「フジヤマのトビウオ」とブラジル日系コロニアの戦後」(2019年、青土社)などの論考がある。「アジアと出会う—ボクシング史料が切り拓く日本—フィリピン関係史」(2020年、弦書房)を刊行予定。